



NETWORKING NEWS LETTER



CONTENTS

[新連載]

地球と一緒に!...つくる人TALK
トマトに、野生のチカラ。
POD要ファーム・磯山茂男さん

伝える心...つくり手とお店が生む
共感の広場。
...あひるの家(東京都国立市)

[トピック&ニュース]
6.8エネルギーウォーキング

復活! ポラン広場東京の
「自然学校」
2013、参加者募集開始

視点: 復興と防潮堤
震災被災地視察報告

[INFORMATION]
事務局からのお知らせ
●7月の活動予定
●活動短報

JULY
2013

7
月号



6.8さよなら原発 エネルギーシフトウォーキング @福生~羽村

第3回「毎月11日に近い土曜日にさよなら原発 エネルギーシフト ウォーキング」は、福生市から羽村市までをゆっくり、しっかりと歩きました。

青梅ブンブンの会(*1)のメンバーが手描き手づくりの色とりどりの旗を持って合流したり、グループ「まるわ」(*2)のお母さんたちがベビーカーを押し小さな子の手をひいて加わったりと、コースの途中からの参加も多く、華やかなウォーキングになりました。

次回7月13日は、午後の日差しを避けて午前10時から、短冊を吊るした笹の葉を持って羽村~青梅を歩きます。8月10日は午後5時からの夕涼みウォークを予定。ちいさな子どもやベビーカー、浴衣や下駄でも参加し易いようコース短縮も相談中です。

毎月11日に近い土曜日に「さよなら原発 エネルギーシフト」ウォーキングを続け、市民がデモをする西多摩に変えましょう! 歩く・話す・叫ぶ・唄う・踊る・鳴らす・掲げる・持つ・着る・被る・配る...思い通りのスタイルで。「さよなら原発 エネルギーシフト」の1点で、ネットワーク!個人・グループ・団体が繋がり、それぞれの情報と取り組みを共有しましょう。(ポラン広場東京 ネットワーキング情報ページより)

*1 青梅ブンブンの会...3.11以降、今の暮らしの在り方に問題意識を持つ、20代から70代までの市民が結成。「これからのエネルギー」や「放射能汚染」「ローカリゼーション」等について学び、話し合い、行動している。会の名前は、初めての活動が『ミツバチの羽音と地球の回転』自主上映だったことから <http://ome-bunbun.jimdo.com/>

*2 まるわ...放射能の子どもへの影響を心配し不安に思う、青梅周辺の子育て世代の母達が、原発事故をきっかけに立ち上げた集まり。月1回不定期で「わになっておしゃべりお茶会」などを開催
●お問合せ:mm.urizum@ezweb.ne.jp(うえださん)





【連載】地球と一緒に！…つくる人TALK

トマトに、野生のチカラ。

…POD要ファーム 磯山茂男さん（茨城県行方市）

僕は農業者大学校を出て、トマトやきゅうりの施設園芸専門の農家としてこの世界に入ったんだ。高度成長のころだったし、投資をして、大きなビニールハウスをつくって。ところがオイルショック。1972年ごろだった。石油が値上がりして。ハウス栽培では石油がないと何もまわらない。農薬も化学肥料も石油でできている。消費も落ち込んで、苦しい思いをした。石油に頼りきっていたんだね。農業って何なんだろうと、疑問に思ったよ。

「自然の摂理や、四季にムリがない農業に転換しようと思った」

ポランの皆さんとはそのころからのお付き合い。今日までずっと、もう30年にもなるでしょう。町の若者たちからは影響をたくさん受けました。僕も若者だった。一緒にリヤカー引いて。消費者のお母さんのお話を伺ったり。

その考えをね、石油に頼らないトマト栽培でかたちにしようと思ったんだよ。農薬や化学肥料を使わないようにするには、植物が健康でなきゃいけない。普通の栽培だと水も肥料も欠かさずに太らせる。過保護な感じだね。でも、品種改良される前の、原種が育ったアンデスの高地は、乾いて荒れた厳しい環境なんだ。

そこからヒントを得て、肥料は最初のたい肥だけ、水も苗が小さなき以外は8月の切り上げまで一切やらない、ちょっと常識はずれの方法で育てるようになった。ハウスはあくまでも雨よけの役割。おか



げで室内はいつもホコリが舞うほどに乾燥する。アンデスだね。石油は使わないからボイラーもなし。だから収穫の期間だけはね、ムリをさせない。春の種まきにあわせて収穫は5月末から8月までが限度。

「自然ってスゴイ。いのちはエライぞ」

こうすると、トマトは、厳しい環境に適応しようと、野生の生命力を取り戻す。苗からしばらくは元の養分で生きているけど、5月あたり、それが切れ始めると、トマトががんばっているのがよくわかる。最初の水加減や、その年の天気によるんだけど、トマトにとって、苦しい時期があるんだね。

でもね、苦しさ乗り越えると、人が変わったみたいに伸び始めるんだよ。産毛が密生して虫を寄せつけなくなるし、伸び方が見違えてくる。自然ってスゴイ。いのちはエライぞ、ってね。病気が出ても負けない。枯れも出るのが放っておく。少ない養分を少し

ポラン広場東京今年のテーマは「ネットワーキング」。つくる人、届ける人、そして食べる人みんなのネットワーキングから生まれるオーガニックさがし。「地球と一緒に！」は、つくる人のネットワーキング連載。その第一回目は、茨城県行方市、POD要ファームの磯山茂男さんです。

でも拾ってこようと、根っこもずんと伸びて、一生懸命に子孫を残そうとするんです。

そんなトマトだから、収穫もいちばんいい時期に出さなきゃと、今度は人間がトマトに振り回されるようになる。見栄えではなく、青すぎず、熟れすぎない、ちょうどいいタイミングを見計らっての収穫作業は難しいし、なかなか大変なんだよ。

だから、お盆も明けて切り上げの季節になると、人間もトマトもほんとうにすがすがしい。やるだけやったって、達成感が生まれるんだね。それは、見た目ではない、消費者への約束を、ポランと出会ったところからの約束を、今年もちゃんと果たしました、っていうかね……。それがトマトらしい、本来の香りと、味がぎゅっと詰まったトマトになる。あとは、実際に食べていただくしかないですね(笑)

磯山茂男さん



3年ぶりの開催！ 自然学校 @POD要ファーム！



「2011年。10年以上も続いてきた「自然の学校」の開催が、311により休止になったことはたいへん無念でした。原発の風評被害は今も非常に厳しい状況にあります。2011年はそれなりに耐えたが、2年目の2012年は経

営が困難になるぐらいモノが売れなくなっています。今年の[自然の学校]は2010年以来3年ぶり。これは一筋の光です。農場の全体、そして私にとって一番うれしいこと」

……今年のポラン広場東京・総会の席上で、言葉少なく話された磯山さん。無念の思いが伝わりました。

要ファームでは2011年から継続して放射性物質検査を行っています。その結果は、筍や蓮根など特定の作物を除き不検出です。これに加えて2012年3月に実施したトマト圃場などの「農地全面放射性セシウム分

布の精密測定」の結果や、周辺地域における直近の空間線量率測定結果(※)などを総合し、要ファームでの自然学校再開を決定しました。

(※)例：市立要小学校庭、50cm高 0.118 μ Sv/h(6月4日) 市立北浦幼稚園庭、50cm高 0.083 μ Sv/h(同上)

磯山さんのトマトが、厳しい環境に耐えてすくすく育つように、交流のともし火も復活。ぜひ多くのご参加をお待ちしています！※募集の詳細は裏表紙をご覧ください。





あひるの家
(東京都国立市)

【その1】

つくり手とお店が生む、 共感の広場

(右から)あひるの家の狩野強さん、長男の朱(あかし)さん、パートナーの久美さん



1978年。世の中は高度成長の真っ只中。「そんな中では跳べないなと。それなら街に繰り出そう。跳ばずに、リヤカーで地を這ってみよう…」29才。狩野強さんは、勤めていた役所を辞め、野菜の引き売りを始めました。これが人気で、仲間も増えて、小さなお店を持つことに。それが創業35年の老舗自然食品店「あひるの家」。「あひるも鳥なんだけど、空を飛べないでしょう？」店主の狩野強さんのお話を伺いました。

「やっぱり“人”なんだ」

今じゃ、どこでも有機を置いているね。



この近所だったら宅配が大小16もあるけど、そんな中で店をやっている意味って、やっぱり、人。それしかない



なあって思う。そこに信頼をおく。

ヒト、モノ、カネっていうけど、モノは平準化が進んでいる。情報でも、スーパーや宅配のほうが優れている。こう考えたときに、人を見せたい。お店はステージ。お客さんは観客なんです。有機の八百屋が、対面販売で、いったい何をアピールする？ アピールしない人が対面販売したって何も面白くないでしょう。むしろ顔なんか見えないほうがいい、ってなっちゃう。それでは生き残れない。

有機のジャガイモはこの商圈なら10カ所ぐらいで買える。しかも、うちだったら、高いときもあるし。それでも買ってもらえる何かがないといけな。それはね、やっぱり人。心の通った情報、そして伝えたい気持ち。その対価としてお金をいただいているんだ、と思う。

「明日も元気なポランをつくりたい」

店では、できるだけ多くのつくり手に、売り場に立ってもらう。売り場に人が立って、他愛のない話から専門的なこと、時には人生物語まで。お客さんと触れ合っていく。そういう場面や、機会が多いのが、「あひるの家」の最大の特長。



つくり手の考えや人となりに触れ、心が通う。それを楽しみにしてもらえる八百屋さんでいたい。それがこうして、固有名詞で買ってもらえるようになれば、つくり手本人もうれしい。うれしいと、売れるんだよ。お店も狭いし、そういうのってびんびん伝わる。

こう考えると、「あひるの家」は昔から変わらない。人の出会い。そこからひとつの村をつくらうとしているんだね。だからやっぱり、ポランの野菜はおいしいね！とお客さんに言ってもらいたい。明日も元気なポランをつくりたい。もっともっと、伝えていきたいね。

……畑から生産者が野菜を売りに、たい焼き屋さんも、お菓子屋さんも、そして魚屋さんもやってくる。10坪ほどの店内。肌の触れ合う親しい距離で、それは「お友だち」感覚の、楽しく親身な“ステージ”だ。情報も、学びもある。狩野さんは、人がそこに立って、話をすれば、共感や共鳴が湧き上がるという。そのときは、品物は普段の10倍も売れてゆくのだそうです。

●あひるの家 東京都国立市東1-15-44
TEL 042-575-9049
HP <http://ahirunoie.boot-boo.com/>



6月29日は秋川溪谷源流の里・養沢へ
**2013年度「自然学校」
スタート!**

2013年度ポラン広場東京の「自然学校」は、多摩川源流の里山での自然体験・交流イベントからスタートです。その第1回目の開催地は東京都あきるの市。多摩川の支流秋川を遡ってやっとたどり着く源流の地が養沢地区です。ここでは、森・里山・溪流の景観を活かした

地域の活性化に住民が主体的に取り組んでいます。

この養沢地区活性化委員会では会長を務める森屋一穂さんは、ご存知ポラン広場東京の生産者会員で、有機こんにゃくなど「一穂のこんにゃく」を製造する有限会社池谷の代表。この縁から、今回の「自然学校」の開催につながりました。

今回の「自然学校」では、あきる野市養沢地区を訪ね、「養沢地区活性化委員会」植樹・景観／果樹園(ブルーベリーなど)／ホテル各部会の取組見学と交流を行います。今後には植樹、下草刈などの体験プログラムも企画検討中。

※開催の様子は、次号で報告します。お楽しみにお待ちしております(^^)

水が美しい里です。…源流地域ということで、水を大切にしようと、広葉樹の植林などを進めて来ました。秋川谷そして養沢は、鍾乳洞、フライフィッシングなどもでき、とてもよいところですが、高齢化の問題を本当に身にしみて感じています。地域の良さをどう「良く伝えるか」。知恵を絞ってうまくつなげていきたい。良い知恵と人間の力が必要なんです。

池谷 森屋一穂さん

what's
自然学校

ポラン広場東京の「自然学校」では、有機農業見学会ツアーや生産・製造者と消費者の交流など、様々なオーガニック・イベントを提案しています。始まりは1998年。POD要ファーム設立を記念して開催された「トマト祭り」。翌年からは田植え(5月)、除草とトマト収穫(7月)、稲刈り(9月)という通年型の交流・体験イベントとして定着し、3・11原発震災による中断まで、12年間継続してきました。延べ参加者数約6000名。今年度から新たに、秋川溪谷・養沢が加わりました。





参加者募集!

復活!

ポラン広場東京の「自然学校」2013[2]

谷津田・里山 有機ハーブ ～トマト 収穫体験@要ファーム (茨城行方市)

2013年度第2回のポラン広場東京の「自然学校」は、茨城行方台地での有機トマトほかの収穫体験・交流イベント。2010年秋以来の復活! 毎回大人気のトマト収穫体験に、冬の間に手入れを続けている里山や、生産者を中心に復活させた谷津田の見学、自分で摘んだフレッシュハーブでティータイム等盛り沢山のプログラムです。

【開催要項】

[日時] 2013年7月21日(土)
11:00～15:00頃 ※雨天決行
(天候によりプログラム変更あり)
[場所] 茨城県行方市 POD要ファーム、ハーブスマンズ農場
[集合場所] POD要ファーム
[参加費] 小学生以上1名500円

10:30～受付開始
11:00～12:00
開会・有機トマト収穫体験
12:00～13:00
昼食・交流 生産者紹介
13:30～
谷津田・里山・ハーブ畑見学
フレッシュハーブ・ティータイム
15:00～現地解散

【お申し込み】

ニュースレター配布の店舗、ポラン広場の宅配窓口、またはポラン広場東京事務局にお申し込みください。※イベント保険に加入します。参加者全員のお名前、住所、電話番号、年齢をお知らせください。

- 服装 動きやすい服装・靴/帽子など日除けをご準備ください。
- 持ち物 昼食および食器(汁物・漬物等は主催者が用意) タオル、マスク(トマトハウスは、原産地アンデス並みの超乾燥状態。歩くだけで土が舞い上がります)、雨具 レジャーシートなど敷物

[主催] NPO法人ポラン広場東京
[問合せ] ポラン広場東京事務局
東京都青梅市長淵 4-393-11
TEL: 0428-22-6821
FAX: 0428-25-1880
mail: office@polano.org



復興と防潮堤

震災被災産地視察報告

【その2】



地震・津波の被災地で、防潮堤工事がどんどん進んでいる。砂浜に7m、8mの防潮堤建設が進んでいて、海鳥の産卵地というような、大切な白浜が失われてしまう。国の補助金があるうちに、国道45号線のあちこちで進められているのがわかった。

産直グループの上野さんにお聞きしたこと。防潮堤は来る波には強いが、引き波には弱い。堤防がなければ、大きな津波が来ても、砂浜の抵抗で一定のところで止まる。ところが堤防があると、最初の波が堤防を押し続け、次の波が最初の波の上に乗りかかり、堤防を越える。越えなければ、次の波がその波の上に乗りかかり越える…と、やがて津波は堤防を乗り越えていく。

「森は海の恋人」。畠山重篤さんが暮らす、宮城県北の端の地、唐桑半島西舞根を訪ねた。そこでも防潮堤の話。森の養分が沿岸に流れ込み、これを海の植物プランクトン、動物プランクトン、そして魚介類へという循環。防潮堤を設けることでこの循環を分断し、森と海の恵みの中にある漁業を、無残に壊してしまう。そんなことが進んでいた。西舞根地区の方々の防潮堤反対がまとまればいいが……

同行してくださった、げんきタウンの森龍三さんから「今回の視察で改めて自然の強大さと脅威、取り返しのつかない原発事故への憤りを覚えた。またその場に行かなければ分からないスケール、空気を感じることができながらも、察するに余り有る人々の心情には言葉が出なかった。これからも忘れない事、そのための訪問であったと自答しています。」と感想が届いていました。

(代表理事・神足義博)

事務局からのお知らせ

活動予定

- 7月6日(土)・7日(日) アースガーデン“夏”～ファーマーズガーデン@代々木公園 後継者未来ネット
- 7月13日(土) さよなら原発 エネルギーシフトウォーキング(4) 羽村市～青梅市
http://www.polano.org/11_networking/130413_walking.html
- 7月21日(日) ポラン広場東京の自然学校2013[2] 谷津田・里山・有機ハーブ&トマト収穫体験@要ファーム(茨城行方市)
- 8月10日(土) さよなら原発 エネルギーシフトウォーキング(5) 青梅市～羽村市
http://www.polano.org/11_networking/130413_walking.html
- 8月23日(金)～25日(日) キッズウィークエンド@青梅4～福島子ども保養ツアー～(東京都青梅市・奥多摩町)

活動短報

- 6月 8 さよなら原発 エネルギーシフトウォーキング(3) 福生市～羽村市 開催
- 10 NPO法人TEAM二本松(福島県二本松市)「青空市場」に義援物品をお届け
- 20 NPO法人TEAM二本松(福島県二本松市)「青空市場」に義援物品をお届け
- 29 ポラン広場東京の自然学校2013[1] 多摩川源流の里山・自然体験 @五日市・養沢 開催

賛助会員の拡大にご協力をお願いします!

●ポラン広場東京は、2011年施行の「新寄付税制」と2012年4月施行の「改正NPO法」に基づき、「認定NPO法人」の取得を目指しています。●認定NPO法人への寄付には、寄付者への所得税・住民税控除、会社等法人への損金算入枠拡大などの税制優遇措置が設けられました。この「新寄付税制」を活用し、補助金助成金と自主

事業収入中心の不安定な資金調達から、会費・寄付金収入を主な資金とする法人運営へと発展させる事がねらいです。●認定取得の主な要件は「年平均100名以上の寄付者がいること」です。賛助会員の年会費(5千円)は寄付金とみなされるので、賛助会員100名以上で要件を満たします。●ぜひともご家族、お友達などにお声がけいただき、賛助会員の入会拡大にご協力ください!

じむきよく NOTE



6月8日(土)鎌仲ひとみ監督の新作『小さき声のカノン』キックオフ集会に参加した。監督とは浅草以来3ヶ月ぶり、変わらずエネルギー!『ミツバチの羽音…』では予告DVD「ぶんぶん通信」の発行でしたが、今回は最新レポートを動画でネット配信、題して「カマレポ」。有料メルマガで、購読料は制作資金に。一口1万円の支

援金も募集中。詳細は公式サイト www.kamanaka.com で。映画のテーマはチェルノブイリ(ベラルーシ)と福島、コンセプトは「共振する思いをつなぐ」。ポラン広場東京も私個人も応援したい。映画の完成は来年夏、公開は秋の予定。オーガニックショー2015では自主上映できるかな…。(佐藤)

NPO法人ポラン広場東京
ネットワークニュースレター



7月号

2013年7月1日発行
(毎月1日発行)

特定非営利活動法人 ポラン広場東京
〒198-0052東京都青梅市長淵4-393-11
TEL: 0428-22-6821 FAX: 0428-25-1880
E-mail: office@polano.org